

# 北播支部ニュース

2014 1月発行

146号

兵庫県保険医協会 北播支部  
〒650-0024  
神戸市中央区海岸通1-2-31  
神戸フコク生命海岸通ビル5階  
電話 078-393-1817

新年のごあいさつ

北播支部長 坪田 徹

新年明けましておめでとう  
ございます。支部会員の先生  
方におかれましては、ご健勝  
に新年をお迎えになられたこ  
とと、お慶び申し上げます。

も続いております。  
本年も政治、経済、医療と  
なかなか大変な年になりそう  
ですが、目の前の患者さんの  
健康を回復することに最善を  
つくし、地域住民の方々が安  
心して暮らせるように奮闘し  
ようではありませんか。

た取り組みを予定していま  
す。ぜひご参加ください。  
本年もさらなるご指導、ご  
鞭撻を賜りますようお願い申  
し上げます。

平素より北播支部に格別  
のご配慮を賜り厚くお礼申しあ  
げます。昨年中は大変お世話  
になりました。

当支部では、先生方やス  
タッフの方々を力強くバック  
アップするための活動を引き  
続き行っていく所存です。特  
に消費税増税直前の企画とし  
て「消費税増税と医療『ゼロ  
税率』(左掲)や診療報酬改  
定研究会など、時宜にかなつ

さて、昨年は、安倍首相が  
環太平洋経済連携協定(TP  
P)への交渉参加を正式に表  
明し、日本は7月に交渉会合  
に正式に参加しました。年内  
妥結はさすがに見送られた様  
ですが、交渉は今年になって

定研究会など、時宜にかなつ



## 兵庫県保険医協会北播支部 緊急学習会

# 消費税増税と医療『ゼロ税率』

日時: **2月19日** (水) 20:00~21:00 **参加無料!!**  
講師

**吉岡 正雄** 先生 兵庫県保険医協会副理事長  
全国保険医団体連合会理事 (経営税務部)

会場: **小野市・加東市医師会館**

安倍政権は今年4月に消費税を5%から8%に増税することを決定しています。  
さらに来年には10%への引き上げも予定しています。

医療機関は、保険診療において患者さんから消費税を受け取りませんが、医療機  
器、医療材料・介護材料などの仕入れに係る消費税を「損税」として負担しています。

「損税」は医院経営を圧迫し、結果として患者さんに良質な医療を提供することに  
支障をきたしています。消費税のさらなる引き上げは、医院経営と地域医療に多大  
な影響を与えます。このたび北播支部では、消費税増税の問題点と、「損税」解消の  
ため協会・保団連が求めてきた医療への「ゼロ税率」について緊急学習会を行います。  
ふるってご参加ください。

## 参加お申し込み・お問い合わせは

TEL: 078-393-1817 担当事務局: 吉永・佐々木 まで

### 次回 支部世話人会

日時: 1月15日(水) 19:30~

会場: 小野市・加東市医師会館

ざっくばらんな集まりです。

ぜひご参加ください。

お問い合わせは TEL: 078-393-1817  
事務局: 吉永、佐々木まで

### 審査・指導相談日

日時 1月9日(木) 15時~

会場 協会会議室

※医科は事前予約制

☎ 078-393-1803 まで

歯科は随時

☎ 078-393-1809 まで

## 協会ホームページご活用 ください!

URL: <http://www.hhk.jp>

協会ホームページは適宜更新してあり  
ます。北播支部のニュースや活動も掲  
載されます。ぜひご活用下さい。

兵庫県保険医協会

検索



「モンサントの不自然なたべもの」感想①

## 世界中を破壊する モンサント社

北播支部は11月9日、映画『モンサントの不自然な食べもの』上映会を、小野市商工会館で開催し、会員・市民ら66人が参加した。この映画は、巨大多国籍企業であり、遺伝子組み換え食物市場を支配するモンサント社の実態に迫るドキュメンタリー。参加者の感想文を紹介する。

上映会は、66人参加の盛況な会となった。この映画鑑賞にあたって、モンサント社の世界戦略への批判的な意味で、対照的な近江商人の「売り手よし、買い手よし、世間よしの三方よし」の信頼を重視する商いの精神を、北播支部幹事である西山敬吾先生が紹介された。

この映画鑑賞にあたって、200万人によって、行われたという。このデモの規模は、モンサント社がそれほどまでに、人類の幸福に対し、不安を感じさせる企業活動を行っているという証ともとれる。

なお、モンサント社に対する、監督のこの映画の内容は、まさに、モンサントとはその商品

や販売世界戦略から、米国の強力な軍事力や米国自身の政治的問題を背景にしていると実感させ、民主主義の破壊者であると断じてよいとさえ感じさせてしまう。

また、日本の厚生労働省にあたる米国FDAによって認可され、今も使われ続けている牛成長ホルモンは、人間への健康被害を危惧させ、さらにGMO(遺伝子組み換え食品)それ自身の在来種への遺伝的浸食は、自然が大切に育んできた在来種の存続の脅威となるのではないかとさえ感じさせ、世界中の人々を震撼させるものも納得がいく。

【小野市・歯科 幸田 雄策】

### 感想②

## 農民の立場から 食の安心守りたい

命の源である食糧を作っている農民の一人として、映画「モンサントの不自然な食べ物」を興味深く、衝撃を受けながら見ました。

消費者に安心して食べていただける農産物を作ること、は、私たちの使命です。

問題の遺伝子組み換え作物はどういうものかといえば、トウモロコシは連作障害を避けるための遺伝子組み換えで、害虫抵抗性(殺虫性)を持ち、根切り虫などの害虫が死んでしまうものです。

大豆は私たちの食生活に欠かせませんが、92%は海外からの輸入で、そのほとんどがアメリカ産遺伝子組み換え大豆です。モンサント社の除草剤ラウンドアップに強い耐性をもち、全ての雑草を枯らす除草剤を撒いても枯れません。

映画が告発するようにラット

トでの発ガンや、南米の大産地では白血球、皮膚・肝臓ガンが多発し、社会問題となっていると報道されています。

しかも、こうした遺伝子組み換え作物を武器に、世界的な穀物メジャーが各国の農業をつぶしています。輸出のための大規模農業が、農民の食糧を作る農地を奪い、食物を作る農民が飢えに直面しているのが、21世紀の世界の食糧危機の実態です。

食糧の60%以上を海外に依存し、国土の荒廃を招いている異常さ、大量生産・大量消費による環境破壊、利益追求のみのゆがんだ社会のあり方が問われているとあらためて感じました。

【兵庫県農民運動連合会

会長 永井 脩】



遺伝子組み換え食品の脅威を映画で学んだ  
(11・9 小野市商工会議所会館)